

報道機関各位

岐阜大学経営企画部広報室
TEL 293-2009 Fax 293-3294
E-mail kohositu@gifu-u.ac.jp

岐阜大学応用生物科学部附属比較がんセンター 「第4回比較腫瘍学シンポジウム」開催のお知らせ

岐阜大学応用生物科学部附属比較がんセンターは、動物とヒトのがんの発生状況、病態、診断、治療、予後を比較して、動物とヒトのがんの克服を目指すことを目的に、平成22年4月に日本で初めて設置されました。

このたび、シンポジウムを別紙のとおり開催しますので、市民の方に多数ご参加いただきたく、貴社の情報コーナーで紹介くださいますようよろしくお取り計らい願います。また、当日の取材につきましても併せてお願いいたします。

【比較がんセンターの特徴と今後について】

- 設置の背景としては、犬の死因のトップはヒトと同様にがんであること、ヒトと同様な種類のがんが発生し、ヒトと同様な治療法を実施し、同じような治療効果が得られていること、また岐阜大学動物病院に腫瘍科が2004年に設置され、動物腫瘍診療のリーダー的存在となっていることがあげられる。
- 比較がんセンターのメンバーは、獣医学、医学、薬学、農学など、学部の壁を取り払って、“がんの克服”という一つの目標に向かって研究連携をすることが特徴である。
- 岐阜薬科大学と連合大学院を設置することにより、医薬獣連携が可能となった。全国的には同一大学で医学部、薬学部、獣医学科（部）があるのは5大学（東京大学、北海道大学、岐阜大学、日本大学、北里大学）のみであり、医薬獣連携体制を組織化したのは岐阜大学が初めてである。
- 研究手段としては、自然発生腫瘍であること、個別化診療ができること、という、従来にはないヒトがん医療のモデルとなる犬がん症例を使用する。
- 研究課題としては、犬がん症例の特徴を生かして、従来のがん研究では実施しにくいもの、十分な成果が得られていないものなどを標的にする。例えば、がんの予防評価研究、ヒトでは稀であるが犬ではよくみられるがんの研究、分子標的薬の犬による有効性および安全性の臨床試験、等について実施する。